

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2015年1月号 通巻73号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

あなたの地元にタヌキはいますか？

全国自治体制覇はまだ遠い…

未報告の県

岩手県、福井県、滋賀県、岡山県、沖縄県

東京都で未報告の市町村（島嶼部を除く）

東大和市、瑞穂町、奥多摩町

※島嶼部での目撃情報は無い

都道府県トップ5

1位＝東京都 84.3%
2位＝神奈川県 4.99%
3位＝千葉県 2.57%
4位＝埼玉県 2.19%
5位＝大阪府 1.60%

動物トップ5

1位＝タヌキ 47.4%
2位＝ハクビシン 43.8%
3位＝アライグマ 6.07%
4位＝アナグマ 0.88%
5位＝キツネ 0.67%

※2014年末現在のデータによるものです。

全世界のタヌキスキーの皆様、明けましておめでとうございます。東京タヌキ探検隊！を今年もよろしくお願いします。

まだ目撃報告がない県

東京タヌキ探検隊！は(名前に反して)全国の目撃情報を収集しています。ですが目撃情報のほとんどは東京都23区からのもので、その他の地域からの情報は今でもとても少ないです。どの自治体からの目撃情報がないかを調べ上げるのはさすがに大変ですので都道府県レベルで示しますと、上記のように5県からはまだ未報告となっています。沖縄県にはタヌキ、キツネはいないような気がしますが、マングースも対象ですので目撃報告よろしくお願いします。この5県以外でも目撃報告が1件だけの県もありました。

東京都内の場合はだいたいの自治体で報告があり、残りは3市町だけです。島嶼部にはおそらくタヌキな

どは生息していないはずですので除外してあります。

全国の市町村のほとんどでは目撃報告がまだありません。あなたの目撃報告が一番乗りになる可能性は十分にあります。目撃情報をぜひしらせてください。

ハクビシンが首位に急迫

他にもいくつかの統計を挙げておきましょう。2014年末現在までの3427件を対象にした統計です。

全データ中、東京都23区は77.6%(2659件)、東京都全体では84.3%(2890件)です。東京都の次に目撃情報が多いのは神奈川県で4.99%(171件)、これは横浜市と川崎市からの目撃が多いためです。以下、千葉県2.57%(88件)、埼玉県2.19%(75件)、大阪府1.60%(55件)という順番になっています。ここまでの合計で全データの95.7%となります。つまりほとんどは首都圏からの目撃情報となっているのです。

動物別ではタヌキ47.4%(1625件)、ハクビシン43.8%(1500件)、アライグマ6.07%(208件)、アナグマ0.88%(30件)、キツネ0.67%(23件)という順になっています。タヌキがトップですが独走というわけではなくハクビシンがすぐ後ろに迫っています。目撃情報はハクビシンの方が多く、数年内にはタヌキを追い抜いてしまうでしょう。

東京タヌキ探検隊！はこれまで多くの目撃情報を集めてきました。それによって生息分布が明らかになりましたし、統計的に動物の特徴を示すこともできるようになりました。毎年公開している報告書にはその成果の一部が書かれています。今年の報告書も1月中旬に公開の予定です。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

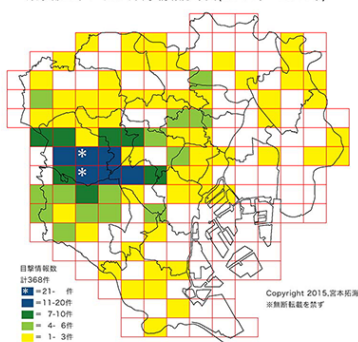
全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

ハクビシンは凶暴？

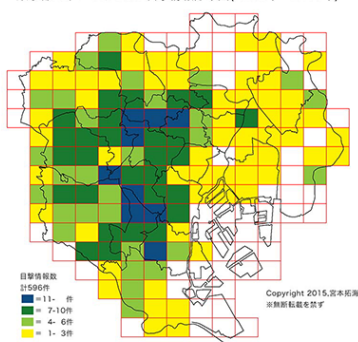
そのような事例は非常に少ない

東京都23区 タヌキ目撃情報分布図(2012年～2014年)



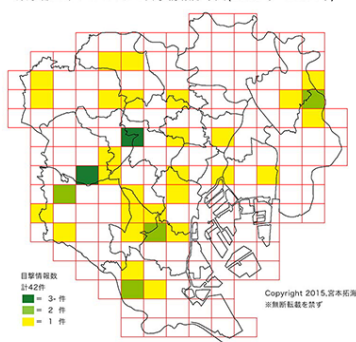
タヌキ

東京都23区 ハクビシン目撃情報分布図(2012年～2014年)



ハクビシン

東京都23区 アライグマ目撃情報分布図(2012年～2014年)



アライグマ

今回は適当な写真がないので、最新の報告書より目撃情報の分布地図を掲載します。

毎年1月は目撃情報を分析した報告書を公開しています。今年はその中で「タヌキとハクビシンの鳴き声」と「ハクビシンとアライグマの襲撃」を紹介しています。今回は襲撃についてちょっと解説します。

駆除業者がおおげさなわけ

どうも世間では「ハクビシンは凶暴」という話が出回っているようです。ネットで「ハクビシン 凶暴」を検索してみると確かにそう書かれたページがごろごろ表示されます。ただ、よく見るとその大半は駆除業者のページか、害獣対策のページです。まるで駆除業者が恐怖をあおっているようにも私には見えます。もともと、駆除業者がハクビシンを凶暴だと思うのには理由があります。天井裏にいるハクビシンを捕獲する、というシチュエーションは駆除業者ならよくあることです。天井裏のような逃げ場のない狭い空間に追い込まれたならば、ハクビシンも必死になって逆襲しようとするのは当然の

ことです。つまり駆除業者は普通の人よりもハクビシンに襲われる確率が非常に高くなるのです。

そういう場所ではなく、普通に路上でハクビシンに出会っても襲われるということはまずありません。ハクビシンはささっと逃げていくでしょう。これは東京タヌキ探検隊！が集めたデータでも明らかで、ハクビシンの全目撃情報1600件以上の中で襲撃事例は1件しかありません(攻撃的な事例、威嚇した事例を合わせても30件以下)。襲撃はかなり特殊な状況でだけ発生するのです。

アライグマの場合は全目撃情報約200件のうち襲撃事例が9件記録されていて、ハクビシンよりも凶暴のように見えます。ただし、襲撃事例は「子連れのアライグマが散歩中のイヌを襲う」という状況が共通しているようです。ですのでアライグマもいつでもどこでも凶暴というわけではありません。アライグマについてはもっと事例を多く集めていけば襲撃の条件がはつきりしてくるかもしれません。

ちなみにタヌキには威嚇例はありますが襲撃例はありません。

噂を信じちゃいけないよ

冷静に考えてほしいのですが、目についたものに見境なく襲いかかるような動物なんて存在しません。ハチだっていつもいつも刺してくるわけではありませんし、毒ヘビでもそうです。そもそもハクビシンもアライグマも雑食なので動物ばかりを食べるわけではありませんし、食べる対象も自分より小さな鳥やネズミや昆虫です。東京タヌキ探検隊！は動物たちの本当の姿を知ってもらうためにもさまざまなデータを提供していきたいと思っています。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

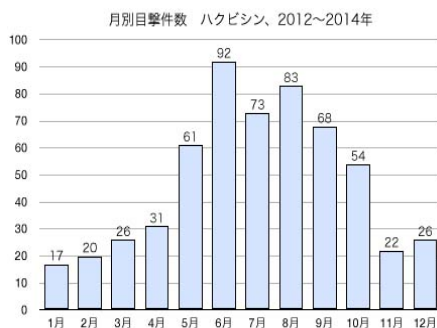
<http://tokyotanuki.jp>

冬は暇な探検隊

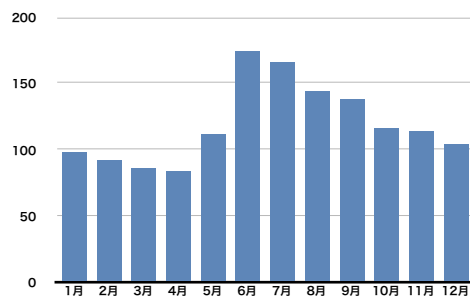
目撃情報数は夏に多い



タヌキ(東京都23区)



ハクビシン(東京都23区)



メールでの目撃情報数(全動物、全国)

いずれも2012～2014年の合計。メールでの目撃情報はデータベースに記録した日付であり、実際の目撃日とは必ずしも一致しない。

渡り鳥であるツバメは春から秋の間だけ、カモ類は秋から春の間しか見られません。セミが鳴くのは夏だけ、カブトムシも夏だけ。動物の中にはこのように季節限定のものが多くいます。もちろん、年中活動している動物も多くいます。タヌキもハクビシンも冬眠はしませんので1年中見ることができる動物です。

その原因はハクビシン

ところが不思議なことに東京タヌキ探検隊！に送られてくる目撃情報の数は季節によって変動しています。実際に集計してみると上右のグラフのようになり、夏多く冬少ないことは明らかです。ホームページへのアクセス解析をしてみても同じ傾向になります。夏になるとタヌキやハクビシンへの人々の関心が急に高まる、ということではないでしょう。夏休みの調べものでは？と思われるかもしれませんが、ピークは6月ですとの関係なさそうです。

データを詳しく見ていくと、季節の偏りの主な原因はハクビシンにあることがわかります。上中のグラフのようにハクビシンの目撃はまさに夏多く冬少なくなっているのです。タヌキにも季節変動がありますが季節差は大きくありません。ところがハクビシンは夏冬の差がはっきりしています。真冬でも目撃はされているので冬眠をしているのではありません。ですが、冬は外出を控えるなど活動量が減少しているらしいことが推測されます。これは多くのデータを集めることで初めてわかったことで、東京タヌキ探検隊！の成果のひとつです。

季節によって活動量がどう変化するのかは例えば動物にGPSロガー(記録装置)をつけて追跡すれば詳細にわかるでしょう。ですがロガーの装着・回収はなかなか難しく、実行は簡単ではありません。

東京タヌキ探検隊！の毎年の報告書の公開が1月であるのも目撃情報が少ない時期で集計作業に集中できるから、という事情がちょっとだけ

あります。東京タヌキ探検隊！は冬の方が暇なのです(アブラコウモリも冬は冬眠し、実質的には半年間だけしか観察できません。東京コウモリ探検隊！の活動も冬はほぼ冬眠してしまうのです)。

ハクビシン2回目の目撃

そんな真冬の先日のこと、私自身がハクビシンを目撃しました。私にとってこれが2回目のハクビシン目撃です。昨年を目撃と同じく自宅近くの場所でしたので同じ個体だった可能性があります。冬の夜だったのですが普通にすたすたと道路を横断していききました。とても冬眠する動物には見えませんでした。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Civet Times

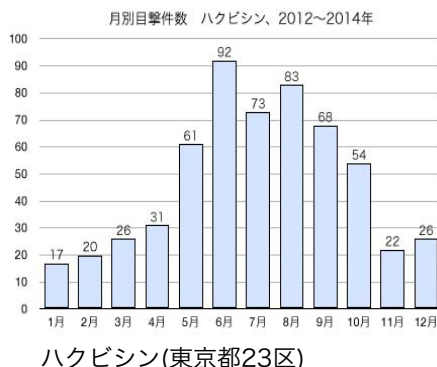
東京ハクビシンタイムズ

2015年4月号 通巻76号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

ハクビシンは冬眠してるのかも仮説 目撃情報数の季節変化はこれで説明できるか？



先月号と同じグラフでごめんなさい。

いずれも2012～2014年の合計です。

タヌキとハクビシンでは明らかに傾向が違っています。これは何か重大な違いを示しているのでしょうか。

先月と同じような話題で申し訳ありません。ハクビシンの目撃情報がなぜ冬に少ないのか？ 上のグラフのように、タヌキに比べるとハクビシンは夏冬の差がかなりはっきりしています。やはり何か特別な要因があるのかもしれない、とずっと気になっていたのです。

冬眠を調べる難しさ

どんな図鑑や本を読んでも「ハクビシンは冬眠する」とは書かれていません。しかし、ひょっとしたらそうではないのかもと思ったのは雑誌「Newton」2015年4月号に掲載された「冬眠の不思議にせまろう」という記事を読んだからです。記事中に「シベリアシマリスのように、同じ環境に置かれた同じ種であっても、冬眠するものもいればしないものもある」と書かれており、私の頭の中でハクビシンと冬眠が結びついたので。ハクビシンの中には冬眠する個体も、しない個体もいるのかもしれない。さらに、冬眠の期間も個体

差があるとするならば、ハクビシンの夏冬の目撃数の違いがうまく説明できるのではないのでしょうか。これを「ハクビシンは冬眠してるのかも仮説」(冬眠仮説)と名付けることにしましょう。

ハクビシンが冬眠するなんて話は誰も聞いたことがないかもしれませんが、それは誰も調べなかったからかもしれません。また、飼育して調べようとしても、クマのように飼育下(例えば動物園)では冬眠しない例もあります。ですので野生にいる個体を調査しなければなりません。

厳密に調査をするならば、複数頭のハクビシンに電波発信機やGPSロガー(位置情報記録装置)などを装着し、長期間(少なくとも1年間)追跡調査しなければなりません。これはかなり大がかりな調査になってしまい、私のリソースでは実現不可能です。

冬眠するにしてもしないにしてもその結果は非常に重要な意味を持ちます。誰か挑戦してみてください。

ちなみに食肉目の中で冬眠することが知られているのはツキノワグマ、

ヒグマ、アメリカクロクマ、ホッキョクグマ(以上はクマ科)、そしてアナグマ(イタチ科)だけです。

ニコニコ学会β、再び

さて、ここでお知らせです。4月25日、26日に開催される第8回ニコニコ学会βで宮本がポスターセッションに出展します。場所は幕張メッセのニコニコ超会議2015会場内(第9ホール)です。ポスター発表では重大発表もあります。ただし、ニコニコ超会議の入場券(有料)が必要になりますのでご注意ください。また、ニコニコ超会議は他にもさまざまなイベントが開催されます。詳しくはネット検索してみてください。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

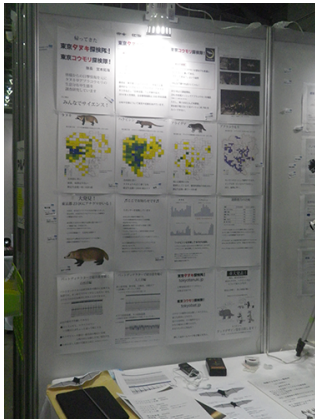
東京タヌキタイムズ

2015年5月号 通巻77号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

ニコニコ学会βにまた行ってきました カオスな会場随一の異色展示？



会期中はほぼずっとポスター前にはりついていたので、まわりの写真を撮る余裕なんてあまりありませんでした。ポスターの内容は調査研究のダイジェスト版です(写真左)。写真右はホール9～11の風景です(開場前)。あまりに広すぎて全体は写っていません。

4月25～26日にニコニコ超会議2015(幕張メッセ)内で開催された第8回ニコニコ学会βに参加してきました。第5回に続き2回目の参加です。今回はポスターセッションに出展しました。

野獣系、がんばる

ニコニコ学会βの詳細はそのホームページをご覧ください。「ユーザー参加型研究」「誰でも参加できる」「さまざまなジャンルを許容している」といった特徴を持つかなり異色の「学会」です。見た目は不真面目そうですが、多様な発見や問題提起をはらんだエキサイティングな場です。専門家向けの学会と違い、一般の人でも参加しやすいでしょう。

ニコニコ超会議の方は何と言うか超カオスなイベントで、大相撲やったり自衛隊が来ていたりコスプレしてたり踊っていたり痛車が勢ぞろいしていたり、よくわからないものでした(笑)。全般的にはオタクな感じでしょうか。私はスタッフ扱いで

すいすい出入りできたのですが、来場者数は2日間で15万人だったそうでとてつもない大混雑なのでした。行き帰りの電車も確かに超満員でした(土日なのに！)。

そんな異色の会場の中でも東京タヌキ探検隊！&東京コウモリ探検隊！は超異色の存在だったはずですよ。おそらく唯一の「リアル野獣系」のはず…です。メインストリートからちょっと引込んだ場所だったので気がつかない人が大多数でしたが、がんばってアピールしてきたつもりです。

こんなふざけた場所ではなく、ちゃんとした学会で発表すべきでは？との疑問を持たれるかもしれませんが、私は動物学の専門教育を受けていないアマチュアに過ぎません。各種の学会とはまったく縁がなく、専門家の知り合いもないアウトサイダーであるため、学会や専門誌に発表する方法がまったくわからないのです。ですが、21世紀はインターネットという発表の場がありますのでそれほど不利だと思ったことはありません。

それでもニコニコ学会βのようなリアルな発表の場があるのはとてもありがたいことです。

ネット時代でもリアルな場を

ちなみにニコニコ学会βは5年期限定という期限があります。次回12月が最終回となる予定とのこと。私のようなアウトサイダーを受け入れてくれる場がなくなるのは残念なことです。やはりネット外でのアピールも必要なのです。

もし他の発表の場やイベントなどをご存知の方がいればぜひ教えてほしいです。また、イベントの運営側の立場ならばぜひ私を呼んでください。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2015年6月号 通巻78号 毎月1日発行 購読無料

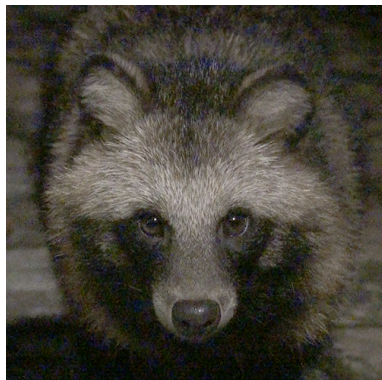
©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

タヌキの耳は丸くない タヌキ耳をよーく観察してみましょう！



夏毛



冬毛

左右どちらも2010年に観察した家族の「お母さん」。鼻の左右脇に小さな黒模様があるので簡単に識別できた。また、人間に最も接近してくるのはいつもこの「お母さん」だった。夏毛は7月、冬毛は10月に撮影したもの(文京区)。



←これが間違った「丸耳」

「ネコ耳」と言えば誰もがその形状を思い起こせるほど広く知られているものです(特に萌え業界において)。その一方で「タヌキ耳」の方は間違った形状が広く流布しているという惨憺たる状況です。

タヌキ耳は丸みのある三角

「タヌキ＝丸耳」というのは多くのイラストで見られる表現ですが、丸耳なのはクマかネズミです。根元部分が細くなっている丸耳のタヌキはありえません。タヌキの耳は「丸みを帯びた三角形」と私は説明するようにしています。それってネコ耳にも似ている、と思われるでしょうが、その通りなのです。ネコ耳の方が直線的、という程度の差でしかありません。

と、説明したにもかかわらず上の写真の「お母さん」はとっても丸い耳をしています。こういう丸い耳のタヌキもいることはいるのです。それでも根元が細くないことには注目してください。

写真を2枚並べたのは、夏毛と冬毛の印象の違いを説明するためです。夏毛の時は全身の毛が短くなるため、相対的に耳が大きく見えます。タヌキの一般的イメージとはかなり違って見えることでしょう。タヌキと言うよりイヌに近い印象さえあります。私は「イヌそのもの」とさえ表現することがありますが、タヌキはイヌ科、そして骨格もそっくりなので当然のことでもあるのです。

一方、冬毛の時は耳の辺りから後方の毛が長く伸びるため顔全体の面積が広がって見え、相対的に耳が小さく見えます。こちらの方が一般的なタヌキのイメージでしょう。

もうひとつの注意点として、耳の縁が黒いことも忘れてはなりません。見落としそうですが、これ、重要です。ちなみに耳の後ろ側の色は「黒」が正解です。が、耳たぶは非常に薄いので光線の具合によっては明るい色に見える場合もあります。

こういったことをちゃんと踏まえてタヌキイラストを描く人が現れるようになるとうれしいですね。

やっと登場？ 正しいタヌキ

イラストのタヌキはたいていどこかでミスをやらかしていて、私を満足させるものはほとんど出てきません。そんな中、「おおっ」と思わせるものがようやく登場しました。それはスマホゲームの「けものフレンズ」。いろんな動物が女の子キャラになっているゲームなのですが、タヌキがちゃんと特徴を踏まえたものになっているのです。「手足が黒い」もちゃんと再現していますよ。他の動物たちの描写もなかなか良くできているようです。ここでは画面を紹介できませんのでネット検索で確かめてみてください。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

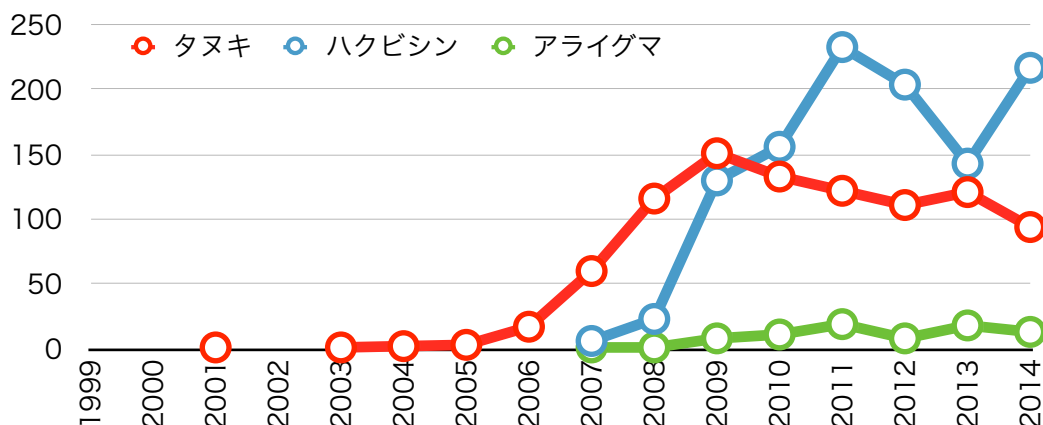
2015年7月号 通巻79号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

ハクビシン被害、いつ増えた？

最近のことではありません



グラフは東京タヌキ探検隊！の収集情報数。メールのみ、その年に届いた目撃情報のみの集計。本文にも書いたように、2008年以前はシステムが十分に機能していなかったために得られた情報数も少なかった。2009年以降は安定して目撃情報が得られている。

どうも最近、「東京でハクビシンが激増している」という噂があるようです。

データで検証すると

こういう場合、たいていはマスメディアの影響だと考えられます。調べてみると2014年9月16日に読売新聞、2014年10月15日に日経新聞、2015年1月7日に朝日新聞がハクビシン被害を取り上げていました。読売新聞の記事によれば「東京都自然環境部では、2010年度に172件だった相談や目撃情報が、12年度には556件に急増した」とあります。

東京タヌキ探検隊！のデータでも検証してみましょう。ただし、東京タヌキ探検隊！の情報収集のシステムが十分に機能し始めたのは2008年頃以降です。なぜそれまでうまく機能しなかったのかというと、パソコンとインターネットの普及がまだ十分ではなかったからです。ですから2007年以前のことはこの調査研究ではまったくわかりません。また、

ハクビシンやアライグマの情報収集を公式に始めたのは2008年からで、そのためタヌキよりもやや遅れて機能することになりました。

上のグラフのように2010年以降はハクビシンでは上下の変動はありますが2倍3倍と増えているような様子はありません。これはつまり、生息数はほぼ上限に達していることを示唆しています。タヌキもハクビシンも生息可能な場所にほぼ進出してしまっており、これ以上増える余地はあまりなさそうだということが読み取れます。

これは先ほどの都の数値と一致しないように見えますが、ハクビシン被害が広く知られるようになったのがその頃だったのだろうと私は推測します。被害は生息数の実態よりも遅れて認知されたのでしょう。

横浜市の場合は

ハクビシンの東京都進出の時期は不明ですが、横浜市の場合は「ハクビシンの横浜市内への進出について」

(板橋他、2010)という文献で分析されています。これによると1990年代から約10年ほどで横浜市全域に分布が広がったことがわかります。東京都23区でも同じ頃に分布が広がったのではないかと思います。東京タヌキ探検隊！の調査は残念ながらその過程には間に合わなかったわけです。

東京都での具体的な分布拡大は都環境局の過去データを調べるとわかるでしょう。野生哺乳類を捕獲するには都の許可が必要で、その結果も報告しなければなりません。その数字を調べれば過去の動向もわかるはずです。私にはそれを調べる余裕がありません。誰か調べてみていただけないでしょうか。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

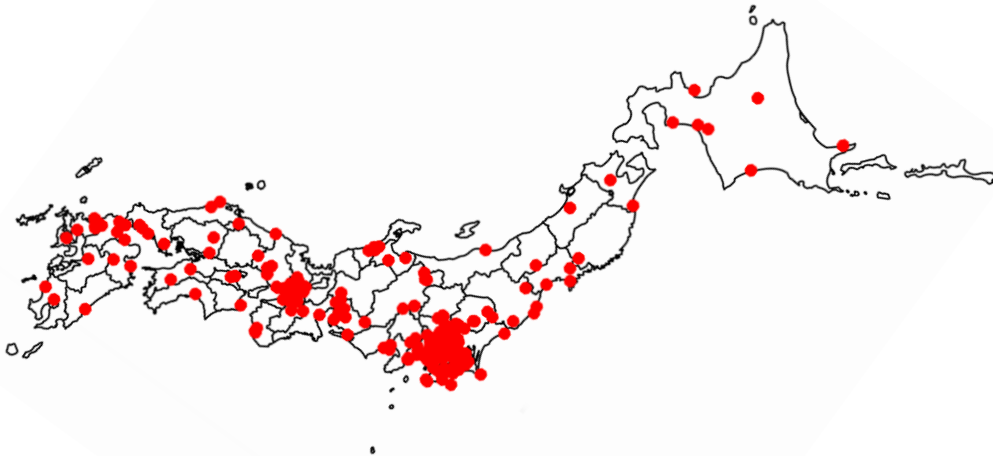
東京タヌキタイムズ

2015年8月号 通巻80号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

ネット参加型調査に欠陥あり 必ずしも万能ではないシステム



東京タヌキ探検隊！の全データ(全動物)を日本地図にプロットした(2015年6月、データ数＝3652件)。南関東は集中しすぎてつぶれてしまっている。東京都23区だけで全体の80%近い目撃情報がある。まだ目撃情報がない県は福井県、滋賀県、沖縄県。マングースも対象なので、沖縄からの目撃情報もよろしくお願いします。

東京タヌキ探検隊！はネットを利用して目撃情報を収集しています。ネットで情報提供を呼びかけ、メールを送ってもらうという「ネット参加型」の調査方法です。

全国調査はうまく行かない

東京タヌキ探検隊！ではこのネット参加型の調査方法がうまく機能しているように見えます。しかしこのシステムは完全でも万能でもありません。

目撃情報を集めるということは、目撃する人間がいなければなりません。人間がいない場所からは目撃情報はやって来ないのです。例えば青木ヶ原樹海や知床半島のように極端に人口密度が低い地域から目撃情報が来ることはまずありません。

ネット参加型の生物調査は東京タヌキ探検隊！の他にも例がありますが、その多くは残念ながらうまく行っていないとは言えません。全国規模でネット参加型調査を行なうと、目撃場所が都市部に集中してしまい、非

都市部はスカスカになってしまうのです。これでは意味のある調査結果にはなりません。

東京タヌキ探検隊！のやり方がうまく機能しているように見える理由は、東京都23区を中心に据えているからです。東京都23区は人口密度が非常に高く、山地のような低密度地域はあまりありません。これはネット参加型の生物調査に非常に適した場所だと言えます。

それでもいいのだ

東京タヌキ探検隊！の実際の調査対象地域は東京都23区だけではなく日本全国です。うまくいっている23区に対して、それ以外からの目撃情報は非常に少なく苦戦しています。名前に「東京」と付けているためかもしれないし、タヌキを日常的に見ることができる地域の人にはあまり関心がないことだからかもしれません。人口密度も当然関係しています。では東京タヌキ探検隊！の全国

展開は失敗なのかと言いますと、私はそう思っていない。

私の主な関心は都市部に生息する野生哺乳類です。目撃情報が都市部に集中したとしてもまったく問題はないのです。また、さまざまな場所からの目撃情報によって、どのような自然環境なら動物が生息できるのかということがわかるようになるでしょう。ですので都市部以外からの目撃情報もとても大切なのです。今はまだ結果が出ていないとしても私は楽観しています。

ネット参加型の調査は現在も発展途上の新しい分野です。試行錯誤をしながら利点欠点を明らかにしていけば、さらにいろいろな応用ができるだろうと思っています。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2015年9月号 通巻81号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

タヌキに話は通じるか？

何考えてるかわかんないです



本文とは別の日のタヌキ家族。(左)最初にお母さんが現われ、やはり無言でエサを要求。(右)その後、ネコエサ目当てに子どもたちが団体でやって来た(2015年9月、文京区)。

イヌやネコを飼っている方なら、「あ、こいつ今私がしゃべったことを理解したな」と思うことが必ずあるはずです。彼らが本当に言語を理解しているとは思えませんが、確かに意思が伝わったと感ずることがあります。では、タヌキとは意思疎通はできるのでしょうか。

表情が読めない…

タヌキを直接観察してわかるのは、表情が乏しいということです。まあ、これはどの野生動物でも似たようなものですが。イヌだったら吠えたり、しっぽを振ったりしますし、ネコならニャーと鳴いたり、ごろーんと寝っ転がったり、ネコパンチしたりします。ところがタヌキはほとんど鳴きませんし、しっぽも振りません。そもそも人間に関心を持っているようにも見えません(警戒しているらしい様子はわかります)。こちらが声をかけても無反応です。これでは何を考えているのかまったくわ

かりません。意思疎通なんて無理なことです。

それでも気持ちがわかる瞬間というのがありました。ある時のこと、タヌキ家族がネコエサを食べている様子を観察していたら、お母さんタヌキが私の方をじっと見つめています。そして少しずつ近づいてくるではありませんか。ま、まさか私に興味を持ってくれたのか?!と思っていううちにビデオカメラのすぐ前までやって来たのでした。「えっと…ご用は何でしょうか?」とたずねても答えてくれるわけはありません。お母さんはなかなか私のそばを離れようとしません。と、ここで私は思い至りました。お母さんは「メシくれ」と言っているのだと(苦笑)。毎日来てるわけではなかったのにすっかり顔を覚えられてしまっていたんですね。

イヌ、ネコこそ特殊な存在

タヌキのこういった様子を観察していると、逆にイヌやネコの方が特

殊なのではないかと思うようになりました。動物が人間の言葉を理解できないのは当たり前です。それができてしまうイヌやネコの方がよっぽど異常ではないでしょうか。なぜイヌ、ネコにはできるのか。それは人間とのつきあいが非常に長いからでしょう。イヌは1万年以上、ネコは5000年以上も前から人間と共に暮らしてきました。これだけの年月があればお互いの考えていることも少しは理解できるでしょう。

私たちは動物について考える時、イヌやネコを基準にして考えがちです。ですがイヌ、ネコこそ特殊な存在であり、野生動物と同一に考えることはできないということを覚えておくべきです。

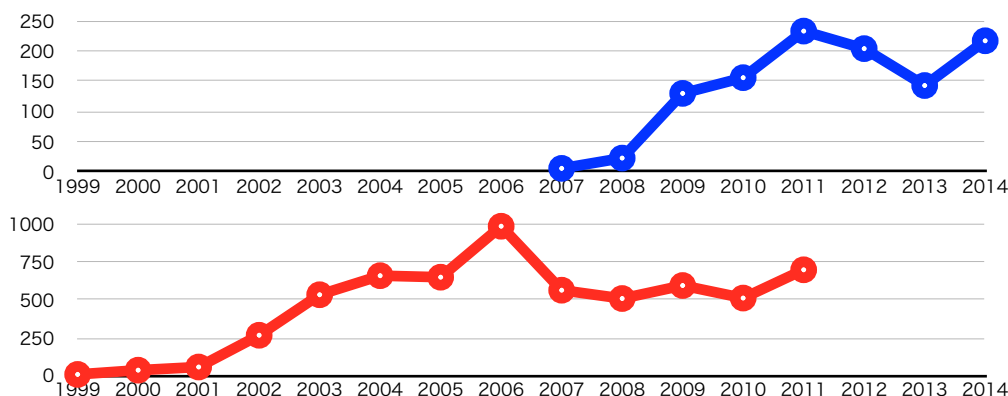
スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

どうする？ハクビシン・アライグマ対策 情報無ければ対策もできず



(上)東京タヌキ探検隊！のハクビシンの収集情報数。メールのみ、その年に届いた目撃情報のみの集計。ハクビシンの目撃情報収集を本格的に開始したのは2008年以降なのでそれ以前は機能していない。(下)東京都全域でのハクビシンの農業被害額(万円)(東京都環境局資料より)。

東京都環境局のホームページで「東京都アライグマ・ハクビシン防除実施計画」という文書が公開されています。文書の内容からすると2013年に作成されたもののようですが、なぜか以前読んだ記憶がありません。内容が無意味だったので忘れてしまっていたのかもしれませんが。いつものことながら都が私に意見を求めてきたこともありませんでした。

対策の具体案は無し

この文書には驚くような対策案は何も書かれていません。「捕獲体制を整備」とか「計画的防除を実施」とか書かれていますが、いつどこでといった具体的なものはありません。捕獲の方法も従来通り鳥獣保護法に従ったもの(箱ワナを使用する)で、新しい方法が示されているわけでもありません。総合的な、概論的なことしか書かれていないのです。

また、捕獲は「区市町村を中心に地域住民、農業者、関係団体、研究機関等が連携して取り組む」とされ

ています。つまり都は金をばらまか後ろで応援しているだけということなのでしょうか。これでは任された自治体・住民も大変です。

そもそも都はハクビシンやアライグマがどこにどれだけ生息しているかも把握していないようで、これでは計画の立てようもありません。情報量が対策の基盤にもなることを認識していただきたいものです。

進出時期を再検討すると

計画の批評はさておき、この文書には別紙として捕獲や被害の状況を載せた資料もあります。上に表示したグラフはその中のひとつで、都全域でのハクビシンの農業被害金額を表しています。このグラフを見ると、5年ほどで生息数のピークに達しているらしいことがわかります。これはちょっと速すぎるようにも思えます。被害額が増えている時期の2003年前半はSARS(重症急性呼吸器症候群)騒動が起こっていました。この時、感染源としてハクビシンが犯人

とされたため、ハクビシンの知名度が一気に上がりました。「そうか、あれはハクビシンだったのか」と気付いた人がいたため計上された被害額が増えたのかもしれませんが。その場合、もっと以前の1999年代後半から都内への進出が始まっていたと考えられそうです。

ハクビシンが進出した後にも注目してください。被害額はある程度まで増えた後は横ばいです。目撃情報数も似たような傾向で、2倍、3倍と増え続けているようなことはありません。私の印象では、23区内でのハクビシンの生息数は既に上限近くまで達しているように見えます。ですのでハクビシンが危険だと大げさにあおりたてる必要もないのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2015年11月号 通巻83号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

秋葉原アライグマ事件

あのアライグマはどこから来たのか



正面に3本並んだ街路樹の右側の木にアライグマは登った(2015年10月、事件後の別の日に撮影)。パソコン店に入ったことからパソコンのパーツを買いに来たのだと推測されるが、隣のドンキあるいはAKB48劇場にも行くつもりだったのかもしれない。

2015年10月4日、日曜日の夕方、秋葉原に突然アライグマが現れ騒ぎになりました。

逃げたペットではない

午後6時50分頃、秋葉原のメイン道路と言える中央通りに面したパソコン店前でアライグマが発見されました。アライグマはその店の前の街路樹に登ったものの、そこから移動することができなくなりました。警察がやって来ただけでなく消防署のはしご車まで出動することになり、見物人もかなり増えたようです。アライグマは約2時間後によりやく捕獲されました。その時に警察官2人を含む3人がかまれたりして軽傷を負ったとのことでした。

現場は上の写真のようにドン・キホーテとAKB48劇場が入ったビルのすぐ隣、秋葉原の中でも目立つ場所での事件でした。

報道によると、警察はこのアライグマは飼われていた個体と考えているようです。私の推理は逆で、自然

下で繁殖した個体であるのは確実に考えています。

2005年に外来生物法が施行され、特定外来生物に指定されたアライグマは飼育も譲渡も輸入も禁止されました。その当時飼育されていた個体は例外扱いですが、10年も経過した現在、ほとんどは寿命となっているはずで、です。このアライグマが逃げたペットなどではないことは明らかです。

追跡できないアライグマ

しかし秋葉原にアライグマが生息しているはずがない、と考えるのは当然のことです。アライグマに限らず秋葉原は野生動物が定住できる場所ではありません。東京タヌキ探検隊！が蓄積した目撃情報でも、いわゆる秋葉原での目撃事例はハクビシンが1件あるだけです。そのためこのアライグマはどこか別の場所から来たことになります。今回の現場から半径2km以内にはこれまでアライグマの目撃情報はありませ

ん。タヌキやハクビシンの生息分布からアライグマがいそうな場所は推測できます。そのひとつは上野公園から谷中霊園にかけての一带です。この地域は緑地が多く、動物の生息に向いています。他には後樂園以西の神田川北岸、皇居も候補です。

ただ、東京都23区内でのアライグマ目撃情報は累計でも約100件しかありません。これだけでは詳細な分布状況もわかりません。タヌキ、ハクビシンはそれぞれ1300件以上も目撃情報があり分布もかなりわかっている、それを援用してアライグマの状況を推測するしかありません。もっと詳しく調べるには目撃情報の蓄積がさらに必要です。皆様の目撃情報をお待ちしています。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2015年12月号 通巻84号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

祝！大村智氏ノーベル賞受賞

大村先生はタヌキの救世主なのです



タヌキの疥癬症の例を紹介する。

(左)疥癬症がかなり進んだ状態で、地肌が見えている。

(右)顔のまわりはまだ毛が残っているが、目は十分に開いていない状態である。耳の縁も形がくずれてしまっている。

(いずれも2010年11月、文京区で撮影)

2015年10月5日、夜のテレビニュースで大村智氏がノーベル生理学医学賞を受賞したとの報道がありました。えっ、あの大村先生ですよ？ ついに受賞なんですね！

有名ではなかった大発見

疥癬症は人間や一部のほ乳類で発症する皮膚の病気です。ヒゼンダニ類が皮膚に寄生することで発症します。強いかゆみが生じ、人間の場合、皮膚に赤い点々が出るなどの症状が出ます。動物の場合ではイヌやネコでの発症がよく知られていますが、野生動物の中ではタヌキでの報告が多くあります。東京タヌキ探検隊！が収集した目撃情報でも約1割で脱毛症状が見られ、原因は疥癬症と考えられています。

大村先生の功績は既に広く報道されている通り、抗寄生虫薬イベルメクチンの元になったエバメクチン Avermectin の発見です。イベルメクチンは最初は家畜向けの薬として使用されましたが、人間の病気である

オンコセルカ症などにも効果があることがわかり、世界的に広く使われることになりました。また、イベルメクチンはイヌではフィラリア、疥癬症の薬として使用され、タヌキの疥癬症の薬としても使われています。イベルメクチンの功績は医学・獣医学の寄生虫病の分野では世界的に知られていたものでした。それでもなかなかノーベル賞受賞に至らず、「これだけの成果でも受賞できないのかー」と私も思っていました。そして今年ようやく受賞となったのです。ノーベル賞は死んだ方には授与されません。長生きするのも受賞のコツなんだなあ、とあらためて思ったりもしました(大村先生は今年80歳なのです)。

野生動物は助けるべきか？

タヌキを救うイベルメクチン、ですがすべてのタヌキを救えるわけはありません。日本中に散らばっている疥癬症のタヌキすべてを捕獲すること自体が不可能なことなのです

から。それに、野生動物に人間が介入していいのか、という問題があります。病気にかかり、死ぬことがあるのも野生動物の運命です。絶滅危惧種なら保護も必要かもしれませんが、タヌキは絶滅の心配もありません。公平性の点から考えると、タヌキだけを特別扱いするわけにはいきません。スズメもヘビもカエルもヨシノボリもカブトムシもアリもクマムシもミジンコも…すべて公平に扱わねばなりません。そんなことは不可能です。

とは言え、タヌキの疥癬症にはわからないことが多くあります。病気と治療の研究は必要なことです。そうすればいつかより良い解決方法が見つかるかもしれません。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>